

科目	解剖学各論Ⅱ			必修	履修学年	2年	授業の方法	講義	時間数	64
目標	循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿器系・生殖器系の構造を理解する。									
内 容										
1	血管系	血管系	17	鼻腔・副鼻腔の構成						
2	〃	体循環と肺循環	18	咽頭・喉頭の構成						
3	〃	血管の構造と機能	19	肺・縦郭の構成						
4	〃	門脈	20	消化管の構造と機能						
5	心臓	心臓の位置・心臓の構造	21	口腔～食道						
6	〃	刺激伝導系	22	咽頭・喉頭の構成						
7	〃	心臓の栄養血管	23	胃の構成						
8	動脈の走行	頭頸部	24	腸の構成						
9	〃	胸腹部・骨盤	25	肝臓の構造						
10	〃	上肢	26	膵臓の構造						
11	〃	下肢	27	腹膜の構成						
12	静脈の走行	体循環系の静脈	28	腎臓の構成						
13	〃	奇静脈・門脈循環	29	尿路系の構成						
14	胎児循環		30	男性生殖器						
15	リンパ循環		31	女性生殖器						
16	定期試験		32	定期試験						
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
解剖学 医歯薬出版株式会社										
担当講師						桑原 俊男				

科目	生理学Ⅱ			必修	履修学年	2年	授業の方法	講義	時間数	64
目標	<p>医学は、生命の維持と健康の増進を目標としています。医療はその健康の維持に生じた不具合を治すことを目標とする学問です。生理学は、生命現象を基本として、人体の構造と機能について学ぶ学問です。人体の機能を、血液、呼吸、消化、吸収、代謝、排泄の植物性機能と運動、感覚、神経の動物性機能についてそれぞれ詳しく学ぶことにより、人体の機能を理解していきます。</p>									
内 容										
1 循環	心臓の構造	17 生殖	生殖器							
2 //	刺激伝導系	18 //	受精と発生							
3 血管	動脈・静脈・毛細血管	19 成長と老化	個体の成長							
4 //	肺循環・体循環・冠循環	20 //	加齢変化・更年期障害							
5 呼吸	外呼吸・内呼吸	21 内分泌	ホルモンの種類							
6 //	気管・気管支。肺の構造と機能	22 //	ホルモンの調節と機能							
7 肺胞換気	肺におけるガス交換	23 内分泌器官	視床下部ホルモン							
8 消化	酸素・二酸化炭素の運搬	24 //	甲状腺ホルモン							
9 //	口腔～食道の構造と機能	25 //	副腎皮質ホルモン							
10 吸収	胃の構造と機能	26 血液	血液の成分と機能							
11 //	小腸・大腸の構造と機能	27 //	血液凝固作用							
12 栄養	栄養とエネルギー	28 体温	体温の調節							
13 //	同化作用と異化作用	29 //	体温の産生と放散							
14 代謝	基礎代謝・物質代謝	30 排泄	腎臓の構造と機能							
15 //	糖質・脂質代謝・タンパク質代謝	31 //	体液の調節・排尿反射							
16 定期試験		32 定期試験								
評 価										
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>										
教 材										
生理学 医歯薬出版株式会社										
担当講師						広瀬 智道				

科目	病理学概論 I			必修	履修学年	2年	授業の方法	講義	時間数	64
目標	<p>身体を構成する細胞・組織・器官が正常な形を保ち、正常な生理機能を営むことで円滑な生命現象を果たしている病理学は、病的な状態の身体に起きている異常や変化について学び、疾病の原因や成り立ち・進展など疾病の背後にある要因を明らかにしてゆきます。</p>									
内 容										
1 正常と異常	正常と病態の区別	17 腫瘍	腫瘍とは							
2 //	病気の分類	18 //	良性腫瘍と悪性腫瘍							
3 //	症状・兆候・症候	19 //	上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍							
4 //	正常をゆがめる要因	20 先天性異常	奇形とは							
5 //	正常への回復に影響する要因	21 //	染色体異常疾患							
6 循環器系障害	虚血と梗塞の定義	22 //	遺伝子の異常							
7 //	充血とうっ血	23 免疫系の異常	免疫獲得のメカニズム							
8 //	浮腫の分類	24 //	免疫不全症							
9 細胞・組織障害	細胞の障害と適応	25 //	先天的免疫不全症							
10 //	細胞の死	26 //	アレルギー疾患と分類							
11 //	ネオクローシスとアポトーシス	27 //	自己免疫疾患							
12 炎症	炎症とは	28 代謝性疾患	糖質・脂質・タンパク質代謝							
13 //	創傷治癒のメカニズム	29 //	代謝の正常な仕組み							
14 感染症	病原体の種類	30 //	糖・脂質代謝の異常なメカニズム							
15 //	汗腺の成立	31 //	ミネラル・ホルモンバランス異常							
16 定期試験		32 定期試験								
評 価										
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う  60点以上を合格とし、単位を認める  再試験・追試験を行うことがある</p>										
教 材										
生理学 医歯薬出版株式会社										
担当講師						桑原 俊男				

科目	臨床医学総論 I			必修	履修学年	2年	授業の方法	講義	時間数	32
目標	<p>・疾病概念を学び、鍼灸師として必要な臨床医学に関する基本的知識を獲得する。 ・疾患に対する検査法を選ぶことが出来、疾患と検査を結びつけることが出来る。</p>									
内 容										
1 診察の概要	診察の意義・診察の一般心得									
2 //	関連用語の理解・診察法の種類									
3 //	診察の順序・記録の内容と目的									
4 診察方法	医療面接									
5 //	診察方法（視診・触診・打診・聴診）									
6 //	測定法									
7 生命徴候の診察	バイタルサイン									
8 //	体温・脈拍									
9 //	血圧・呼吸									
10 全身の診察	顔貌・顔色・他									
11 //	精神・言語・他									
12 //	身体計測・体形・他									
13 局所の診察	頭顔面部・他									
14 //	眼・耳・鼻・他									
15 //	頸部・胸部・他									
16 定期試験										
評 価										
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う  60点以上を合格とし、単位を認める  再試験・追試験を行うことがある</p>										
教 材										
<p>教科書 臨床医学総論 東洋療法学校協会編  配布プリント</p>										
担当講師						鎌田 福井				

科目	臨床医学総論Ⅱ		必修	履修学年	2年	授業の方法	講義	時間数	32	
目標	臨床医学総論Ⅰに引き続き、疾病概念と病態を学び、鍼灸師として必要な臨床医学に関する基本的知識を獲得する。疾患に対する検査法を選び、疾患と検査を結びつけることができる。									
内 容										
1	神経系の診察	脳神経系・髄膜刺激症状の検査								
2	〃	感覚検査法・反射検査・他								
3	運動機能検査	運動麻痺・不随意運動								
4	〃	徒手筋力検査・他								
5	その他の診察	緊急時の診察								
6	〃	年齢・性別毎の診察								
7	臨床検査法	一般検査・血液性化学検査								
8	〃	生理学的検査概要・画像診断概要								
9	主な症状の診察法	頭痛・顔面痛・歯痛・眼精疲労								
10	〃	鼻閉・鼻汁								
11	〃	めまい・耳鳴り・難聴・他								
12	治療学	概要・薬物療法								
13	〃	食事療法・理学療法								
14	臨床心理	患者の心理								
15	〃	心理学的検査・評価法								
16	定期試験									
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
教科書 臨床医学総論 東洋療法学校協会編 配布プリント										
					担当講師	鎌田 福井				

科目	臨床医学各論 I			必修	履修学年	2年	授業の方法	講義	時間数	64
目標	<p>現代の予防医学の重要性と健康志向などから東洋医学ことに鍼灸医療への期待やニーズが高まっている。東洋的アプローチを含め全人的な医療が求められる傍ら、疾病に対する科学的な知識をもたずに臨床現場に立ち入ることはあってはならない。本科目では疾病を科学的、疫学的な観点で学び、俯瞰的に患者や症状を見る力を養い、身につけることを目的としている。卒後、臨床家として患者の前に立つ諸子に実務的な観点で疾病を判断することのできる知識と技術を講義して行く。</p>									
内 容										
1 感染症1	臨床で遭遇する細菌感染症と感染経路	17 整形外科学総説	保存的治療と観血的治療							
2 感染症2	ウイルス感染、薬剤耐性問題	18 "	画像診断学 総論							
3 脳血管疾患	くも膜下出血、脳梗塞、脳虚血	19 関節疾患	関節炎、可動域の異常、OA							
4 循環器	脳腫瘍、脳動脈瘤	20 "	いわゆる五十肩、投球肩							
5 脳疾患	血栓、奇形、機能異常と症状	21 "	椎間関節症とヘルニア、狭窄症							
6 変性疾患	神経膠腫、髄膜腫ほか	22 "	すべり症、徒手検査と症状							
7 錐体路障害	大脳基底核の病変	23 骨代謝性疾患	骨粗鬆症、くる病							
8 "	ドパミン欠乏と症状	24 "	骨軟化症、骨腫瘍、関節鼠							
9 筋疾患	アセチルコリンなどの伝達物質の働き	25 筋と筋疾患	筋肉の炎症と症状、筋膜炎							
10 "	筋ジストロフィーの分類と運動障害	26 "	腱鞘炎、神経管の症状							
11 末梢神経疾患と治療	徒手検査	27 形態異常	先天性股関節脱臼、斜頸							
12 感染性肺疾患	筋と末梢神経、障害	28 "	側湾症の計測方法							
13 定期試験	ブロック注射の適応、守備範囲	29 "	斜頸、外反母趾、内反足							
14 非結核性抗酸菌	日和見感染と肺炎	30 脊椎疾患	椎間板ヘルニア、OPLL							
15 まとめ	症状と最新の知見	31 "	LSCS、変形性脊椎症 まとめ							
16 後期期末試験	肺抗酸菌症の特徴	32 定期試験	筆記試験							
	復習と質疑応答									
	筆記試験									
評 価										
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>										
教 材										
東洋療法学校協会編 臨床医学各論、配布資料(授業毎)										
担当教員						椎名 賢太郎				

科目	臨床医学各論Ⅱ			必修	履修学年	2年	授業の方法	講義	時間数	64
目 標	<p>高齢化社会、社会構造の複雑さ、生活習慣病の増加などを受け、現代の疾病構造も複雑かつ多様化している。また、合併症、併発症も伴い鍼灸医療に対する社会的ニーズもきわめて多様化している。本科目は鍼灸診療を志す諸子に現代医学の観点から臨床医学について講義的な解説を行うものである。医療や疾病の基本を身につけることはすべての医療従事者にとって必須であり、多様なケースにおいて適切な判断を実務的に行うことができるようになることを目標としている。</p>									
内 容										
1 総論	感染症総説、洗浄、消毒、滅菌 感染の続発	17 消化器疾患総説	各疾患、口腔疾患を含む							
2 細菌性疾患	各感染症	18 食道疾患	ホルネル症候群など神経障害も含							
3 ウィルス性疾患	各感染症	19 腸疾患	潰瘍、イレウス、腫瘍を含む							
4 法定感染症	1～5の分類(年度最新版)	20 "	その他痔疾患など							
5 脳血管疾患	各症状、評価スケール	21 肝臓疾患	肝炎等感染症も含む							
6 脳、脊髄腫瘍	変性症などの症状も含む	22 "	腫瘍マーカー、各症候							
7 認知症	各症状、評価スケール	23 胆道疾患	各症候							
8 筋疾患	各疾患、遺伝子要因も含む	24 すい臓疾患	慢性、急性、腫瘍、各部の特徴							
9 "	各所見と理学検査を含む	25 腎臓疾患	ネフローゼ症候群							
10 末梢神経疾患	麻酔科領域を含む	26 "	浮腫み、高血圧、前立腺疾患含む							
11 "	感染症も含む	27 女性生殖器	HPV、PMS含む							
12 神経痛	末梢神経疾患 全般	28 血液疾患	各疾患、口腔疾患を含む							
13 機能的疾患	群発性頭痛を含む	29 リンパ網内系疾患	悪性リンパ腫等							
14 呼吸器疾患	感染性肺疾患	30 出血性素因	DIC、血友病							
15 "	機能的肺疾患	31 症例検討	超音波検査、血算、心電図から							
16 定期試験	筆記試験(選択問題を含む)	32 定期試験	筆記試験(選択問題を含む)							
評 価										
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>										
教 材										
東洋療法学校協会編 臨床医学各論、配布資料(授業毎)										
担当教員						椎名 賢太郎				





科目	リハビリテーション医学	必修	履修学年	2年	授業の方法	講義	時間数	32	
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「リハビリテーション」という言葉の本意を理解する。</li> <li>・医療分野におけるリハビリテーションを理解し、多職種との連携が図れるよう知識を身に着ける。</li> <li>・各疾患の病態を理解し、回復過程・回復段階における症状の変化、それに対するリハビリテーションを行えるよう知識を身に着ける。</li> </ul>								
内 容									
1	リハの総説	リハビリテーションと障害 リハビリテーション医学と医療							
2	〃	障害の評価							
3	〃	障害の評価							
4	医学的リハ	理学療法							
5	〃	作業療法、言語聴覚療法							
6	〃	補装具、リハビリテーション看護 ソーシャルワーク							
7	各疾患のリハビリ	脳卒中①							
8	〃	脳卒中②							
9	〃	脊髄損傷							
10	〃	切断							
11	〃	脳性麻痺							
12	〃	整形外科疾患							
13	〃	関節リウマチ、末梢神経							
14	〃	パーキンソン病、呼吸、心疾患							
15	総括								
16	定期試験								
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
リハビリテーション医学(医歯薬出版株式会社) 配布資料 【参考文献】 リハビリテーション医学(南江堂)									
						担当講師	木村 健太郎		

科目	スポーツ医学		必修	履修学年	2年	授業の方法	講義	時間数	32	
目標	<p>身体の構造や機能を理解し、正常動作、移乗動作について学習する。運動能力を最大限発揮するために必要な知識を身に着け、スポーツ現場、介護現場等でのリハビリテーションや機能訓練に活かす。</p>									
内 容										
1 関節と運動	関節運動として空間における関節運動									
2 姿勢・異常姿勢	重心と重心線・異常姿勢									
3 運動路と感覚路	運動路・感覚路									
4 反射と随意運動	脊髄反射、反射									
5 //	平衡反応、連合反応と共同運動									
6 脊柱・体幹の機能	椎骨、椎間板、脊柱の動きと、筋の作用、胸郭の動きと									
7 肩甲帯・肩の機能	肩甲帯・肩の構造、主な筋、回旋筋腱板、肩甲上腕リズム									
8 肘・前腕の機能	肘と前腕の構造、主な筋									
9 手・手指の機能	手関節の骨構造と関節・主な筋・手のアーチ・内在筋・変形									
10 骨盤と股関節の機能	骨盤と股関節の構造・主な筋・股関節の動き・股関節の異常									
11 膝関節の機能	膝関節の構造、主な筋、膝関節の異常									
12 足の機能	足の構造、主な筋、足のアーチと変形									
13 正常歩行と異常歩	歩行のサイクル、歩行速度とエネルギー消費									
14 //	歩行の分析									
15 総括	異常歩行									
16 定期試験										
評 価										
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>										
教 材										
<p>リハビリテーション医学(医歯薬出版株式会社) 配布資料 【参考文献】リハビリテーション医学(南江堂)</p>										
					担当講師	木村 健太郎				

科目	東洋医学概論Ⅱ			必修	履修学年	2年	授業の方法	講義	時間数	64
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年時に学習した内容の理解を深め、一人の身体の状態を説明できるようになる。</li> <li>・診察技術を正しく身に付け、患者を「診る」という意識を持つ。</li> </ul>									
内 容										
1	1年時の復習	東洋医学の特徴、東洋医学の思想	17	弁証	弁証の概要、八綱弁証					
2	〃	生理と病理	18	〃	気血津液弁証					
3	〃	蔵象	19	〃	臓腑弁証					
4	〃	経絡、病因病機	20	〃	臓腑弁証					
5	四診	四診の概要、望診（神・色）	21	〃	経絡弁証、六淫弁証					
6	〃	望診（形、態、舌診）	22	〃	その他の弁証、標本、主客					
7	〃	望診（舌診）	23	〃	治則					
8	〃	聞診	24	論治	治法八法、生理事質の病証に対する治法					
9	〃	問診（進め方、主訴）	25	〃	臓腑の病証に対する治法					
10	〃	問診（基本的な問診事項）	26	〃	外感病に対する治法、症候に対する治法、その他の治法					
11	〃	問診（その他の問診事項）	27	〃	治療法の概要（補瀉法）					
12	〃	切診（反応）	28	〃	治療法の概要（選穴の原則、特定穴の応用）					
13	〃	切診（腹診、脈診）	29	〃	古代刺法					
14	〃	切診（脈診）	30	〃	弁証論治の進め方と証の決定					
15	総括		31	総括						
16	定期試験		32	定期試験						
評 価										
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う  60点以上を合格とし、単位を認める  再試験・追試験を行うことがある</p>										
教 材										
<p>新版 東洋医学概論（医道の日本社） 配布資料  【参考図書】 鍼灸学（基礎編）（東洋学術出版社）</p>										
担当講師						木村 東條				

科目	東洋医学臨床論Ⅰ		必修	履修学年	2年	授業の方法	講義	時間数	32	
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東洋医学と現代医学を総合した鍼灸治療の実際を学習し、医療面談の元、治療の適・不適を判断することができる。</li> <li>・臨床上遭遇しやすい症候、疾病について現代医学的な考え方、東洋医学的な考え方の双方を学び適切な鍼灸治療方法を理解し、説明をすることができる。</li> </ul>									
内 容										
1 治療総論	現代医学、東洋医学双方の疾患に									
2 //	対する考え方を学び、その違いと									
3 //	治療計画の立て方を学習する									
4 治療各論	頭痛									
5 //	顔面痛、顔面神経麻痺									
6 //	歯痛									
7 //	眼精疲労									
8 //	鼻閉・鼻汁									
9 //	脱毛									
10 //	めまい・耳鳴り・難聴									
11 //	咳嗽・喘息									
12 //	胸痛、腹痛									
13 //	悪心・嘔吐									
14 //	便秘・下痢									
15 総括										
16 定期試験										
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
教科書：東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉 東洋療法学校協会編 配布プリント										
					担当講師	鎌田 福井				

科目	東洋医学臨床論Ⅱ			必修	履修学年	2年	授業の方法	講義	時間数	64
目標	前期からの学習に引き続き、鍼灸治療で遭遇する主要症候について現代医学的な考え方と東洋医学的な考え方の双方を学び、医療面談の元、治療の適・不適を判断し、適切な鍼灸治療方法を理解し説明ができる。									
内 容										
1 治療各論	排尿障害①	17 治療各論	月経異常							
2 "	排尿障害②	18 "	運動麻痺①							
3 "	インポテンツ	19 "	運動麻痺②							
4 "	頸肩腕痛①	20 "	高血圧							
5 "	頸肩腕痛②	21 "	低血圧							
6 "	頸肩腕痛③	22 "	発熱							
7 "	肩関節痛①	23 "	のぼせと冷え							
8 "	肩関節痛②	24 "	不眠							
9 "	肩関節痛③	25 "	疲労・倦怠							
10 "	上肢痛①	26 "	スポーツ医学に関する鍼灸①							
11 "	上肢痛②	27 "	スポーツ医学に関する鍼灸②							
12 "	上肢痛③	28 "	小児の治療①							
13 "	腰下肢痛①	29 "	小児の治療②							
14 "	腰下肢痛②	30 "	老年医学に対する鍼灸①							
15 "	腰下肢痛③	31 "	老年医学に対する鍼灸②							
16 定期試験		32 定期試験								
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
教科書:東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉 東洋療法学校協会編 配布プリント										
担当講師						鎌田 福井				

科目	基礎はりきゅう学Ⅰ		必修	履修学年	2年	授業の方法	講義	時間数	32
目標	はりきゅう学の基礎習得のために、東洋医学・臓腑・経絡・経穴・正経十二経、奇経八脈などを学ぶ								
内 容									
1 東洋医学の特徴	東洋医学の沿革・人体の見方								
2 //	日本の東洋医学の現状								
3 生理と病理	生植物質と神								
4 //	蔵象①								
5 //	蔵象②								
6 //	経絡								
7 //	病因病機								
8 東洋医学の思想	陰陽学説								
9 //	五行学説								
10 四診	望診								
11 //	聞診								
12 //	問診①								
13 //	問診②								
14 //	切診								
15 弁証論治									
16 評価									
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
新版 東洋医学概論 (医道の日本社) 配布資料									
					担当講師		専任教員		

科目	基礎はりきゅう学Ⅱ			必修	履修学年	2年	授業の方法	講義	時間数	48
目 標	はりきゅう学の基礎をふまえて応用習得のために、正経十二経、実技などを学ぶ。									
内 容										
1	基礎実習	消毒上の注意								
2	〃	鍼の基本手技								
3	〃	灸の基本手技								
4	〃	身体各部の刺鍼(手指)								
5	〃	身体各部の刺鍼(手関節)								
6	〃	身体各部の刺鍼(前腕)								
7	〃	身体各部の刺鍼(肘関節)								
8	〃	身体各部の刺鍼(肩)								
9	〃	身体各部の刺鍼(前胸部)								
10	〃	身体各部の刺鍼(上腹部)								
11	〃	身体各部の刺鍼(中・下腹部)								
12	〃	身体各部の刺鍼(頸部)								
13	〃	身体各部の刺鍼(上・中背部)								
14	〃	身体各部の刺鍼(腰部)								
15	〃	身体各部の刺鍼(臀部・仙骨部)								
16	〃	身体各部の刺鍼(足指)								
17	〃	身体各部の刺鍼(足関節周囲)								
18	〃	身体各部の刺鍼(下腿)								
19	〃	身体各部の刺鍼(膝周囲)								
20	〃	身体各部の刺鍼(頭・顔面部)								
21	〃	主な反応点の種類								
22	〃	解剖学的特殊部位の刺鍼								
23	応用実習	特殊鍼法								
23	〃	低周波鍼通電								
24	評価									
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
はりきゅう実技<基礎編> (医道の日本社) 配布資料										
						担当講師	専任教員			

科目	はりきゅう治療実技Ⅱ			必修	履修学年	2年	授業の方法	実技	時間数	64
目標	<p>鍼灸の施術技術の精度を高めることは現代の予防医学の重要性と健康志向などから東洋医学ことに鍼灸医療への期待やニーズに的確に応えていくためである。またそれがクライアントや療術施設へのリスク管理にもつながる。東洋的アプローチを含め全人的な医療が求められる傍ら、疾病に対する科学的な知識をもたずに臨床現場に立ち入ることはあってはならない。本科目では疾病を俯瞰的に症状を見る力を養い、臨床技術を身につけることを目的としている。卒後、臨床家として患者の前に立つ諸子に実務的に通用する疾病を判断し施術することのできる知識と技術を身につけることを目標とする。</p>									
内 容										
1	理学所見と判断	症状の判断と施術(下肢)	17	婦人科疾患	灸					
2	〃	〃	18	〃	灸					
3	〃	〃	19	〃	低周波鍼通電					
4	〃	症状の判断と施術(胸郭出口)	20	スポーツ疾患	単刺					
5	〃	〃	21	〃	置鍼					
6	〃	症状の判断と施術(上肢、体幹)	22	〃	低周波鍼通電					
7	〃	〃	23	〃	灸					
8	〃	〃	24	〃	テーピング、運動療法					
9	〃	〃	25	〃	リハビリ					
10	〃	〃	26	退行性変性	関節炎					
11	問診と触察	ケーススタディー	27	〃	〃					
12	〃	ケーススタディー	28	〃	筋萎縮					
13	〃	ケーススタディー	29	〃	〃					
14	〃	ケーススタディー	30	〃	運動療法					
15	〃	ケーススタディー	31	〃	ボディーメカニクス					
16	実技試験	実技試験、口頭試問	32	実技試験	実技試験、口頭試問					
評 価										
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>										
教 材										
<p>長さ30～60ミリ 太さ0.16～0.25ミリの単回使用鍼 もぐさ、 解剖学テキスト(骨、筋、神経の記載があるもの)</p>										
担当教員						鎌田 椎名				



科目	はりきゅう応用実技Ⅱ			必修	履修学年	2年	授業の方法	実技	時間数	64
目標	<p>現代の予防医学の重要性と健康志向などから東洋医学ことに鍼灸医療への期待やニーズが高まっている。東洋的アプローチを含め全人的な医療が求められる傍ら、疾病に対する科学的な知識をもたずに臨床現場に立ち入ることはあってはならない。本科目では疾病を俯瞰的に症状を見る力を養い、臨床技術を身につけることを目的としている。卒後、臨床家として患者の前に立つ諸子に実務的なレベルで疾病を判断し施術することのできる知識と技術を身につける。</p>									
内 容										
1 単刺	頸部、体幹	17 低周波鍼通電	頸部の筋、骨の触察技術							
2 //	体幹、殿部	18 //	後頭下筋群							
3 //	上肢	19 //	//							
4 //	下肢	20 //	//							
5 //	症状別	21 //	寝違え、可動域障害							
6 運動鍼	頸部、体幹	22 //	視力調節障害、眼精疲労							
7 //	体幹、殿部	23 //	背部の筋の、骨、構造の触察技術							
8 //	上肢	24 //	脊柱起立筋							
9 //	下肢	25 //	//							
10 //	症状別	26 //	//							
11 灸	頸部、体幹	27 //	//							
12 //	体幹、殿部	28 //	//							
13 //	上肢	29 //	腰部の触察と判断							
14 //	下肢	30 //	筋膜性腰痛							
15 //	症状別	31 //	非特異性腰痛							
16 実技試験	実技試験、口頭試問	32 実技試験	実技試験、口頭試問							
評 価										
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>										
教 材										
<p>長さ30～60ミリ 太さ0.16～0.25ミリの単回使用鍼 もぐさ、 解剖学テキスト(骨、筋、神経の記載があるもの)</p>										
担当教員						椎名 賢太郎				

科目	分野別はりきゅう実技			必修	履修学年	2年	授業の方法	実技	時間数	64
目標	本教科では、はり及びきゅうの適応の判断を適切に行うことができるようになること、また「施療業」としての、はりきゅうのリスク管理、守備範囲を学び、安全性と施術効果の両立を確かなものにするを目標とする。									
内 容										
1 腰背部	腰背部刺鍼の基本操作	17 頭顔面部への刺鍼	三叉神経痛、突発性難聴							
2 //	触診と観察 リスク管理	18 //	美容鍼							
3 //	関連痛でない背部痛への鍼治療	19 //	//							
4 //	灸頭鍼	20 //	//							
5 項頸部	低周波鍼通電、円鈹鍼、テーピング	21 下肢	ハムストリングス、下腿三頭筋部							
6 //	手技療法、運動鍼	22 //	低周波鍼通電							
7 //	腹臥位での刺鍼、座位での刺鍼	23 //	大腿四頭筋部							
8 肩背部	低周波鍼通電	24 足関節部	前距腓靭帯、二分靭帯部							
9 //	仰臥位、側臥位での刺鍼	25 肩、肘関節	アライメント							
10 //	腹臥位での刺鍼、座位での刺鍼	26 //	回旋筋腱板、野球肘							
11 肩甲帯	低周波鍼通電	27 経絡と鍼灸治療	テニス肘、腱鞘炎							
12 //	灸頭鍼	28 //	疾患症状と経脈、選穴①							
13 //	触診と観察、障害筋の特定	29 //	疾患症状と経脈、選穴①							
14 臀部、股関節部	低周波鍼通電、運動鍼	30 上半身の復習	特定経穴							
15 総括	体幹との連動の見方、運動療法	31 下半身の復習								
16 実技試験	障害筋の診方、刺鍼法	32 実技試験								
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
配布資料										
担当講師						今井 佳江				

科目	臨床実習基礎			必修	履修学年	2年	授業の方法	実習	時間数	46	
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要症候(肩関節周囲炎、頰腕症候群、腰痛症、リウマチ、神経痛)に対する治療計画表を作成する。</li> <li>・指導教員の指導の下、計画表に沿って鍼灸治療ができるようになる。</li> <li>・臨床上必要なもの(カルテの記載方法、評価方法、接遇、身だしなみ)を身に付ける。</li> </ul>										
内 容											
1	治療計画作成	肩関節周囲炎①									
2	〃	肩関節周囲炎②									
3	実技	肩関節周囲炎に対する徒手検査									
4	〃	〃									
5	治療計画作成	頰腕症候群①									
6	〃	頰腕症候群②									
7	〃	頰腕症候群③									
8	実技	頰腕症候群に対する徒手検査									
9	〃	〃									
10	治療計画作成	腰痛症①									
11	〃	腰痛症②									
12	〃	腰痛症③									
13	実技	腰痛症に対する徒手検査									
14	〃	〃									
15	治療計画作成	リウマチ①									
16	〃	リウマチ②									
17	〃	リウマチに対する評価									
18	〃	〃									
19	治療計画作成	神経症状①									
20	〃	神経症状②									
21	実技	神経症状に対する評価									
22	〃	〃									
23	評価										
評 価											
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある											
教 材											
配布資料											
						担当講師	専任教員				